

路面を走る別大電車



大正13年市制施行時、別府駅前通りに建てられた祝賀アーチ



昭和30年の別府駅前女神像



現天満町にあった別府大仏



別府市 祝 市制

別府市 100年 のあゆみ

☎ 秘書広報課 ☎ 21-1123

【大正〜昭和初期】

海岸一帯に旅館街が形成され始めるとともに、観光施設も整備されて観光地としての性格を加え、大正13年（1924年）4月1日に別府市が施行されました。昭和3年には亀の井自動車が発立され、地獄めぐりバスの運行が始まり、昭和4年にはケーブルラクトンチが開園し、全国から多くの観光客が訪れるようになりました。

大正から昭和にかけての別府は筑豊地方の炭鉱王などが別府に別荘を建築し、赤銅御殿、麻生別荘、中山別荘などの優れた建築物も建てられ、保養地としての別府の地位を築いた時期です。

【戦後〜高度成長期】

戦後から昭和50年代にかけて、温泉町の別府市が観光都市へと一大発展を遂げました。昭和32年に別府タワー、昭和37年にロープウェイ、昭和39年にマリーンパレス、そして昭和51年にアフリカンサファリが開園し、高度成長期に多くの観光施設ができ、多くの団体客や修学旅行などを受け入れました。

また、モータリゼーションの発展とともに、昭和39年には油屋熊八翁が提唱した九州横断道路が開通し、別府・阿蘇・熊本の広域観光ルートが生まれました。特に、市制施行後の約50年間は別府観光が一大発展し、都市基盤が整備された時期です。

新らしく生れた



昭和33年

新庁舎が千代町（現南部出張所）に竣工



昭和21年

米占領軍駐留（昭和31年）



昭和6年

別府球場完成

昭和3年

地獄めぐり遊覧バス開設

大正14年

鶴見園遊園地開設

大正13年

市制施行（市徽章を制定）
人口3万6千276人①



ラグビーワールドカップ2019 RUGBY WORLD CUP JAPAN 2019
開催中の外国人旅行者

令和4年つなぐ棚田遺産に
市内5か所の棚田が認定

別府 ON 温泉のシンポジウム
『別府 ONSEN アカデミア』

別府 ONSEN アカデミア

外国人住民と日本人住民の
防災運動会の様子

現在の別府駅前
油屋熊八像

【バブル崩壊〜平成中期】

平成に入り、バブル崩壊とともに旅行形態も団体型から個人型に変化していき、大型化した全国の観光都市は非常に苦戦を強いられた時期でした。別府においても時代の変化に対応していくために、先人たちが様々な努力を重ねてきました。

平成7年にビーコンプラザが完成し、コンベンション誘致を活性化させ、新たな顧客獲得に乗り出しました。また、実相寺公園やべっぷアリーナの整備などによりスポーツ観光を推進し、市民のまちづくり活動が盛んになり、別府の地域性を生かした活動が盛んに行われるようになりました。

平成8年、九州横断自動車道（大分〜長崎）が全線開通し、九州内の車での往来が格段に便利に。平成12年には立命館アジア太平洋大学が開学し、国際化がさらに進み、多くの留学生が暮らす多文化共生のまちとして知られるようになりました。



令和6年	令和5年	令和2年	令和元年	平成29年	平成28年	平成26年	平成22年	平成19年	平成14年	平成12年	平成7年	平成6年	昭和62年	昭和60年	昭和58年	昭和50年	昭和48年	昭和47年	昭和43年	昭和40年	昭和39年	
別府市制100周年	学校給食センター完成⑥	世界中に蔓延	「ラグビーワールドカップ2019日本大会」大分開催	「湯〜園地」開催	熊本地震発生（別府市で最大震度6弱を観測）	別府八湯温泉まつり第100回記念式典	別府市民球場オープン	別府市制90周年	2002年FIFAワールドカップ開催	立命館アジア太平洋大学開学	ビーコンプラザ完成⑤	竹細工伝統産業会館開館	別府大学開業	市役所移転、新庁舎開庁④	別府市公設地方卸売市場完成	別府市身体障害者福祉センター完成	別府市制50周年	道は4車線となる	別大電車廃止、別大国道は4車線となる	別府市民憲章制定	別府民衆駅高架開通	九州横断道路（やまなみハイウェイ）開通
令和6年	令和5年	令和2年	令和元年	平成29年	平成28年	平成26年	平成22年	平成19年	平成14年	平成12年	平成7年	平成6年	昭和62年	昭和60年	昭和58年	昭和50年	昭和48年	昭和47年	昭和43年	昭和40年	昭和39年	